

・ 遊園地・テーマパークの概況

- 売上高の7割超がテーマパーク -

遊園地・テーマパーク数	233事業所	(対13年比	5.7%減)
うち遊園地	115事業所	("	2.5%減)
うちテーマパーク	52事業所	("	13.0%増)
うち動物園	27事業所	("	0.0%)
うち水族館	9事業所	("	10.0%減)
その他	30事業所	("	34.8%減)
就業者数	4万5803人	("	11.6%減)
年間売上高	6006億円	("	1.7%増)
1遊園地・テーマパーク当たり	25億7785万円	("	7.8%増)
就業者1人当たり	1311万円	("	15.0%増)

1. 遊園地・テーマパーク数

平成16年の遊園地・テーマパーク数は233事業所で、前回(平成13年)調査に比べ、5.7%の減少であった。

経営組織別(資本金規模別)

経営組織別にみると、「会社」が157事業所で全体の67.4%を占め、「会社以外の法人・団体、個人」が47事業所(同20.2%)、「国・地方公共団体」が29事業所(同12.4%)となっている。

次に「会社」について資本金規模別にみると、資本金規模「5千万円未満」(60事業所、「会社」に占める構成比38.2%)の事業所が最も多くなっている。次いで「10億円以上」(35事業所、同22.3%)、「1億円以上5億円未満」(33事業所、同21.0%)、「5千万円以上1億円未満」(25事業所、同15.9%)、「5億円以上10億円未満」(4事業所、同2.5%)などとなっており、遊園地・テーマパークは、大規模設備を有している事業所が多く、資本金規模の大きい事業所の割合が高い。

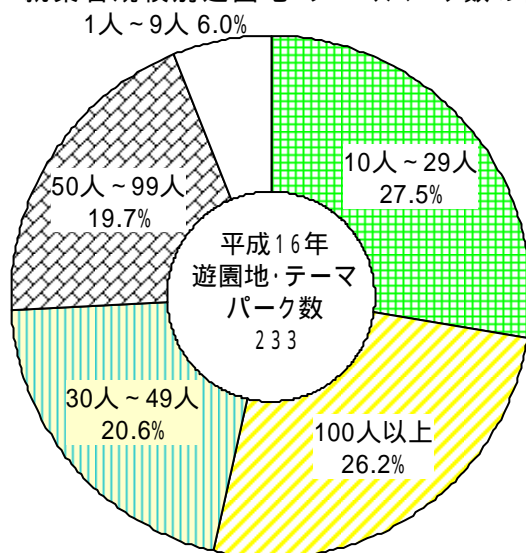
経営組織別、資本金規模別遊園地・テーマパーク数

経営組織別、資本金規模別		平成13年	平成16年		
			構成比 (%)	前回比 (%)	
計		247	233	100.0	▲5.7
会	社	174	157	67.4	▲9.8
資本 金 規 模	5千万円未満	60	60	25.8	0.0
	5千万円以上1億円未満	25	25	10.7	0.0
	1億円以上5億円未満	37	33	14.2	▲10.8
	5億円以上10億円未満	6	4	1.7	▲33.3
	10億円以上	46	35	15.0	▲23.9
会社以外の法人・団体、個人		48	47	20.2	▲2.1
国・地方公共団体		25	29	12.4	16.0

就業者規模別

遊園地・テーマパーク数を就業者規模別にみると、「10人～29人」規模が64事業所、構成比27.5%と最も割合が多く、次いで、「100人以上」規模が61事業所、同26.2%、「30人～49人」規模が48事業所、同20.6%、「50人～99人」規模が46事業所、同19.7%となっており、遊園地・テーマパークは一定設備を有する産業であるため、10人以上の規模で全体の9割超を占めている。

就業者規模別遊園地・テーマパーク数の構成比

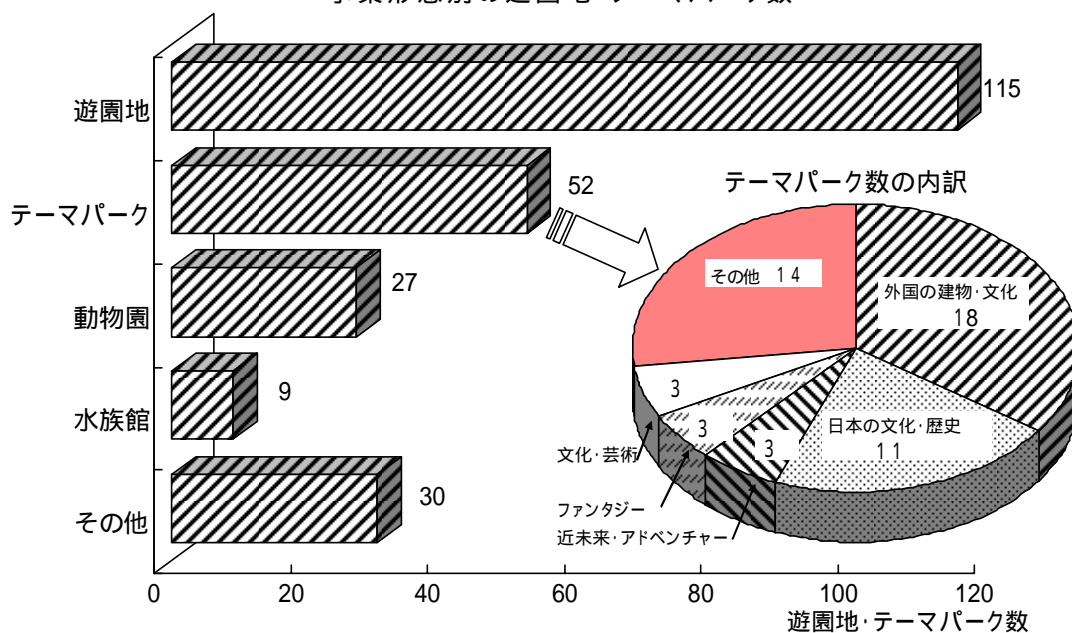


事業形態別

事業形態別にみると、「遊園地」が115事業所（構成比49.4%）と半数近くを占め、以下、「テーマパーク」が52事業所（同22.3%）、「動物園」（動物園に併設されている遊園地をいう。以下同じ。）が27事業所（同11.6%）、「水族館」（水族館に併設されている遊園地をいう。以下同じ。）が9事業所（同3.9%）などとなっている。

このうち、「テーマパーク」について設定テーマ別にみると、「外国の建物・文化」が18事業所と最も多く、「テーマパーク」全体の3割超を占め、次いで、「日本の文化・歴史」が11事業所、「近未来・アドベンチャー」、「ファンタジー」、「文化・芸術」がいずれも3事業所などとなっている。

事業形態別の遊園地・テーマパーク数



2. 就業者数

平成16年の遊園地・テーマパークに従事する就業者数は、4万5803人で前回(平成13年)調査に比べ、11.6%の減少であった。また、1事業所当たりの就業者数は196.6人であった。

男女別、雇用形態別、部門別

就業者数を男女別にみると、「男」が1万8498人(構成比40.4%)、「女」が2万7305人(同59.6%)と、女性が就業者の約6割を占めている。

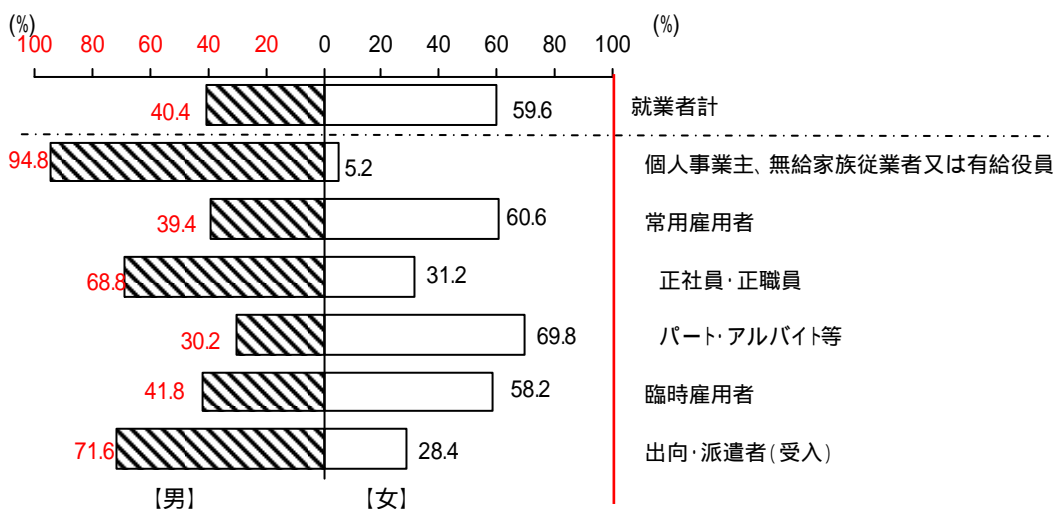
就業者数を雇用形態別にみると、「正社員、正職員」が9874人、構成比21.6%、「パート・アルバイト等」が3万1407人、同68.6%と「常用雇用者」が就業者数の9割超を占めている。また、「臨時雇用者」は3588人、同7.8%、「出向・派遣者(受入)」が704人、同1.5%、「個人事業主、無給家族従業者又は有給役員」は230人、同0.5%などとなっている。

なお、「パート・アルバイト等」に占める女性の雇用割合は、約7割と高いものとなっている。

就業者数

男女別、雇用形態別、部門別		平成13年 (人)	平成16年 (人)	平成16年	
				構成比 (%)	前回比 (%)
計		51,817	45,803	100.0	▲11.6
男女別	男	20,714	18,498	40.4	▲10.7
	うち、出向・派遣者(受入)	866	504	1.1	▲41.8
	女	31,103	27,305	59.6	▲12.2
	うち、出向・派遣者(受入)	536	200	0.4	▲62.7
雇用形態別	個人事業主、無給家族従業者又は有給役員	296	230	0.5	▲22.3
	常用雇用者	46,460	41,281	90.1	▲11.1
	正社員、正職員	11,665	9,874	21.6	▲15.4
	パート・アルバイト等	34,795	31,407	68.6	▲9.7
	臨時雇用者	3,659	3,588	7.8	▲1.9
	出向・派遣者(受入)	1,402	704	1.5	▲49.8
部門別	管理・営業部門	3,231	3,172	6.9	▲1.8
	出札・案内部門	2,809	2,896	6.3	3.1
	現業部門	15,809	14,246	31.1	▲9.9
	食堂・売店(直営)	21,040	18,704	40.8	▲11.1
	その他	7,526	6,081	13.3	▲19.2
	出向・派遣者(受入)	1,402	704	1.5	▲49.8

雇用形態別、男女別の就業者数割合



事業形態別

就業者数を事業形態別にみると、「テーマパーク」が3万3107人、構成比72.3%と最も多く、次いで「遊園地」が8,741人、同19.1%、「動物園」が1355人、同3.0%、「水族館」が604人、同1.3%などとなっている。

「テーマパーク」について設定テーマ別に就業者数をみると、「近未来・アドベンチャー」が、3事業所で、1万1037人、「ファンタジー」が、3事業所で1万799人と、この2テーマでテーマパークの6割超を占めている。

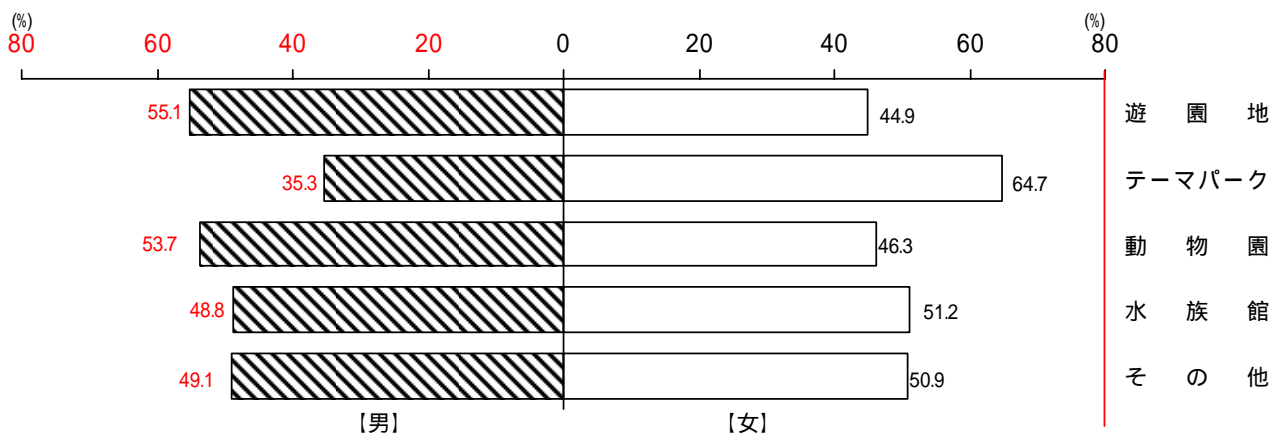
また、事業形態別の前回比をみると、「動物園」が前回比22.3%減、「水族館」が同22.0%の減少など、すべての事業形態で減少となった。

事業形態別の就業者数

事業形態別	平成13年 (人)	平成16年 (人)	前回比	
			構成比 (%)	(%)
計	51,817	45,803	100.0	▲ 11.6
遊園地	9,839	8,741	19.1	▲ 11.2
テーマパーク	36,860	33,107	72.3	▲ 10.2
外国の建物・文化	4,372	3,171	6.9	▲ 27.5
日本の文化・歴史	585	717	1.6	22.6
近未来・アドベンチャー	11,965	11,037	24.1	▲ 7.8
ファンタジー	11,755	10,799	23.6	▲ 8.1
文化・芸術、その他	8,183	7,383	16.1	▲ 9.8
文化・芸術	-	5,692	12.4	-
その他	-	1,691	3.7	-
動物園	1,743	1,355	3.0	▲ 22.3
水族館	774	604	1.3	▲ 22.0
その他	2,601	1,996	4.4	▲ 23.3

事業形態別の就業者数を男女別にみると、「テーマパーク」の女性就業者比率が64.7%と女性の割合が高くなっているものの、他の事業形態は、男女、ほぼ5割前後となっている。

事業形態別、男女別の就業者数割合



3. 年間売上高

平成16年の遊園地・テーマパークの年間売上高は、6006億円と前回(平成13年)調査に比べ1.7%の増加であった。また、1遊園地・テーマパーク当たりの年間売上高は、25億7785万円、就業者1人当たりの年間売上高は、1311万円であった。

収入区分別

年間売上高を収入区分別にみると、「入場料及び施設利用料金収入」が2719億円、構成比45.3%、「食堂・売店(直営)売上収入」が2617億円、同43.6%と、この2区分で9割弱の売上収入となっている。以下、「その他の収入」が571億円、同9.5%、「駐車場利用料金収入」が100億円、同1.7%となっている。ちなみに主力収入区分の年間売上高の前回比をみると、「入場料及び施設利用料金収入」が前回比3.1%の増加に対し、「食堂・売店(直営)売上収入」は同12.4%と大幅な増加となった。

収入区分別の年間売上高

収入区分別	平成13年 (百万円)	平成16年 (百万円)	平成16年	
			構成比 (%)	前回比 (%)
計	590,759	600,639	100.0	1.7
入場料及び施設利用料金収入	263,730	271,919	45.3	3.1
食堂・売店(直営)売上収入	232,828	261,700	43.6	12.4
駐車場利用料金収入	12,903	9,952	1.7	▲22.9
その他の収入	81,297	57,068	9.5	▲29.8

事業形態別

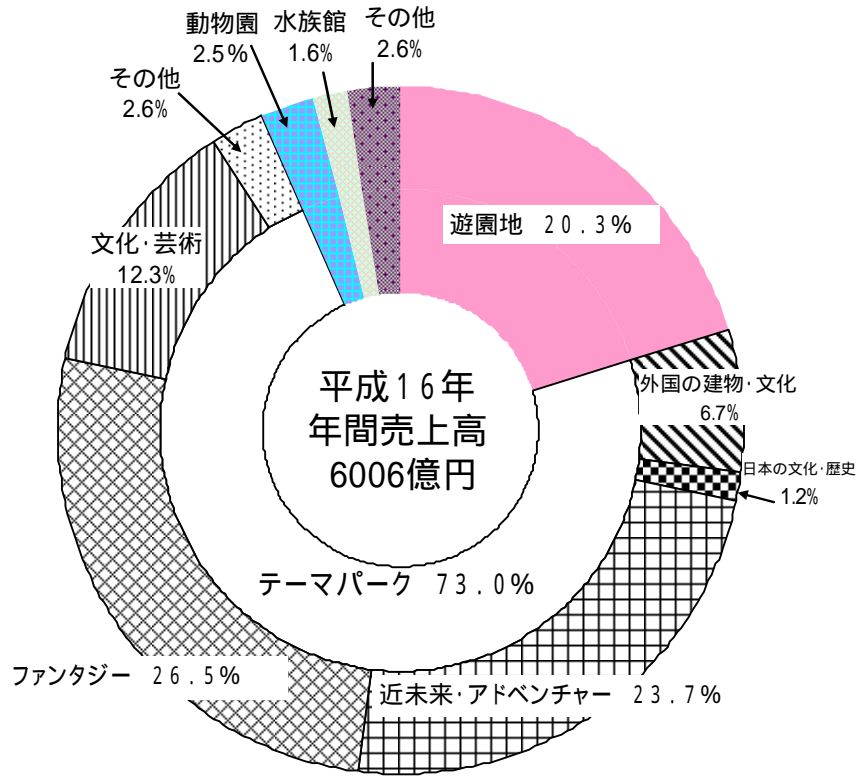
年間売上高を事業形態別にみると、「テーマパーク」が4382億円、構成比73.0%と年間売上高の7割超を占め、以下、「遊園地」が1220億円、同20.3%、「動物園」が152億円、同2.5%、「水族館」、98億円、同1.6%などとなっている。

「テーマパーク」について、設定テーマ別に年間売上高をみると、「ファンタジー」が1592億円、「近未来・アドベンチャー」が1421億円とそれぞれ1千億円超の年間売上高となり、テーマパークの7割弱を占めている。この他、「文化・芸術」が741億円、「外国の建物・文化」が404億円などとなっている。

事業形態別の年間売上高

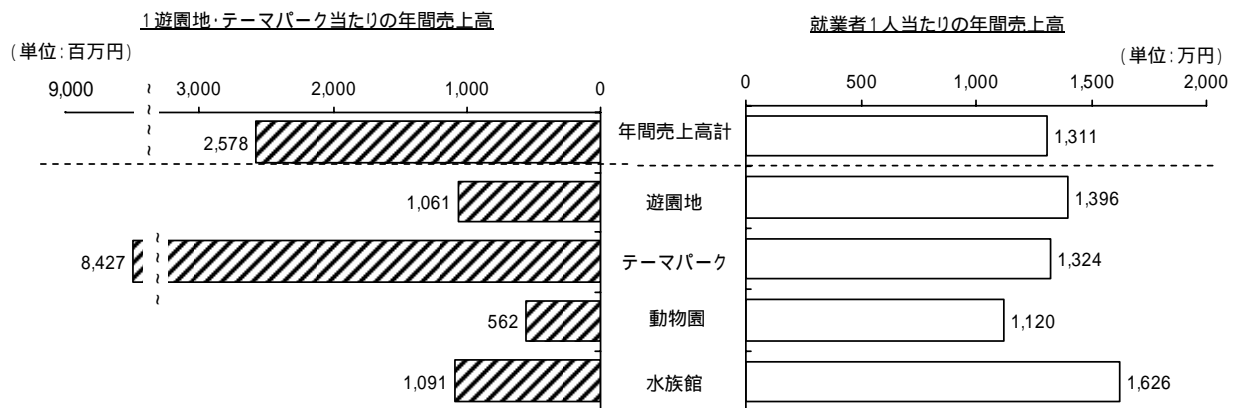
事業形態別	平成13年 (百万円)	平成16年 (百万円)	構成比 (%)	前回比 (%)	平成16年	
					1遊園地・テーマパーク当たり (百万円)	就業者1人当たり (万円)
計	590,759	600,639	100.0	1.7	2,578	1,311
遊園地	127,252	122,019	20.3	▲4.1	1,061	1,396
テーマパーク	409,175	438,187	73.0	7.1	8,427	1,324
外国の建物・文化	70,411	40,378	6.7	▲42.7	2,243	1,273
日本の文化・歴史	7,761	7,033	1.2	▲9.4	639	981
近未来・アドベンチャー	33,699	142,095	23.7	321.7	47,365	1,287
ファンタジー	196,354	159,183	26.5	▲18.9	53,061	1,474
文化・芸術、その他	100,950	89,497	14.9	▲11.3	25,788	1,212
文化・芸術	-	74,055	12.3	-	24,685	1,301
その他	-	15,442	2.6	-	1,103	913
動物園	21,100	15,174	2.5	▲28.1	562	1,120
水族館	12,650	9,820	1.6	▲22.4	1,091	1,626
その他	20,582	15,440	2.6	▲25.0	515	774

事業形態別の年間売上高構成比

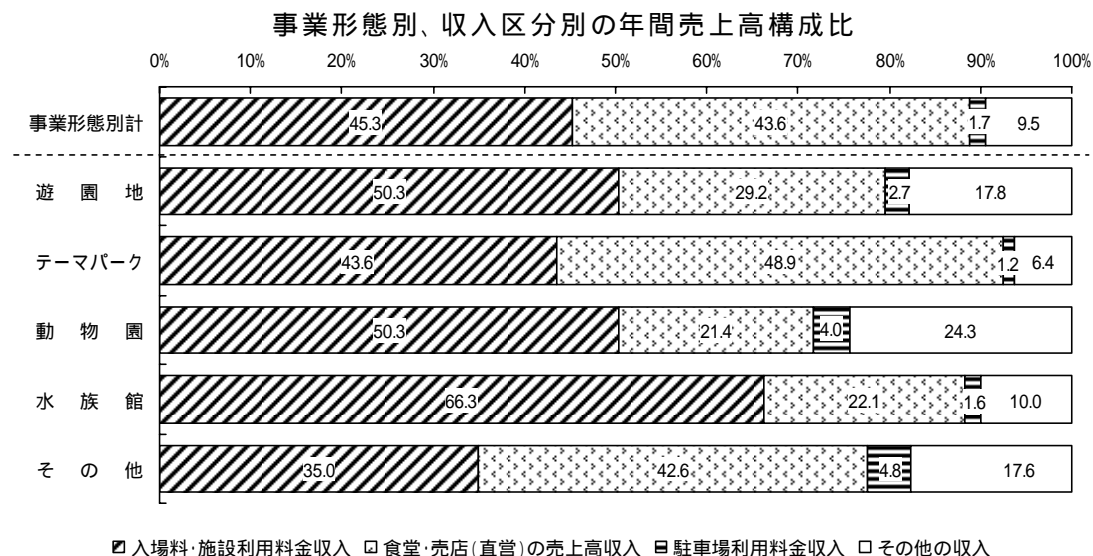


1遊園地・テーマパーク当たりの年間売上高をみると、「テーマパーク」が84億2667万円と他の事業形態に比べ群を抜いて高くなっている。以下、「遊園地」が10億6013万円、「水族館」が10億9107万円、「動物園」が5億6202万円などとなっている。

就業者1人当たりの年間売上高をみると、「水族館」が1626万円と最も高く、次いで、「遊園地」が1396万円、「動物園」が1120万円などとなっている。一方、年間売上高の7割超を占める「テーマパーク」は、各種アトラクション、多数の食堂・売店など、多大なマンパワーを必要とする部門を集客の核としていることなどから、就業者1人当たりの年間売上高は1324万円と売上高に対し、比較的低いものとなっている。



年間売上高を事業形態別に収入区分別割合で見ると、「動物園」、「水族館」では「入場料・施設利用料金収入」の割合がそれぞれ、50.3%、66.3%と半分以上を占め、「テーマパーク」では「食堂・売店(直営)売上収入」が5割弱を占め収入の主力となっている。



4. 入場者数

平成16年の遊園地・テーマパークの年間延入場者数は、1億891万人で前回(平成13年)調査に比べ、0.3%の減少であった。

事業形態別にみると、テーマパークの年間入場者数が5892万人で全体入場者数の5割超を占め、遊園地が2892万人(構成比26.6%)、動物園が1162万人(同10.7%)と続いている。

また、テーマパークの年間入場者数をみると、「近未来・アドベンチャー」が1554万人と最も多く、前回調査に比べても3倍増となっている。これは前回調査期間後半に当該設定テーマの大規模事業所が開業したことなどによる。この他、「ファンタジー」が1325万人、「文化・芸術」が1084万人、「外国の建物・文化」が893万人などとなっている。

1 テーマパーク当たりの年間入場者数は、113万人で、設定テーマでは、「近未来・アドベンチャー」が518万人で最も多くなっている。

年間入場者数

事業形態別	入場料設定有りの遊園地・テーマパーク数	平成13年(万人)	平成16年(万人)	年間入場者数		1遊園地・テーマパーク当たりの年間入場者数	
				構成比(%)	前回比(%)	(万人)	前回比(%)
計	187	10,926	10,891	100.0	▲0.3	58	5.5
遊園地	74	3,553	2,892	26.6	▲18.6	39	▲9.3
テーマパーク	52	5,083	5,892	54.1	15.9	113	2.7
外国の建物・文化	18	1,191	893	8.2	▲25.0	50	▲28.6
日本の文化・歴史	11	308	360	3.3	16.9	33	6.5
近未来・アドベンチャー	3	493	1,554	14.3	215.2	518	215.9
ファンタジー	3	1,859	1,325	12.2	▲28.7	442	▲4.9
文化・芸術、その他	17	1,232	1,760	16.2	42.9	104	1.0
文化・芸術	3	-	1,084	10.0	-	361	-
その他	14	-	677	6.2	-	48	-
動物園	26	1,247	1,162	10.7	▲6.8	45	▲10.0
水族館	8	250	245	2.2	▲2.0	31	10.7
その他	27	794	699	6.4	▲12.0	26	23.8

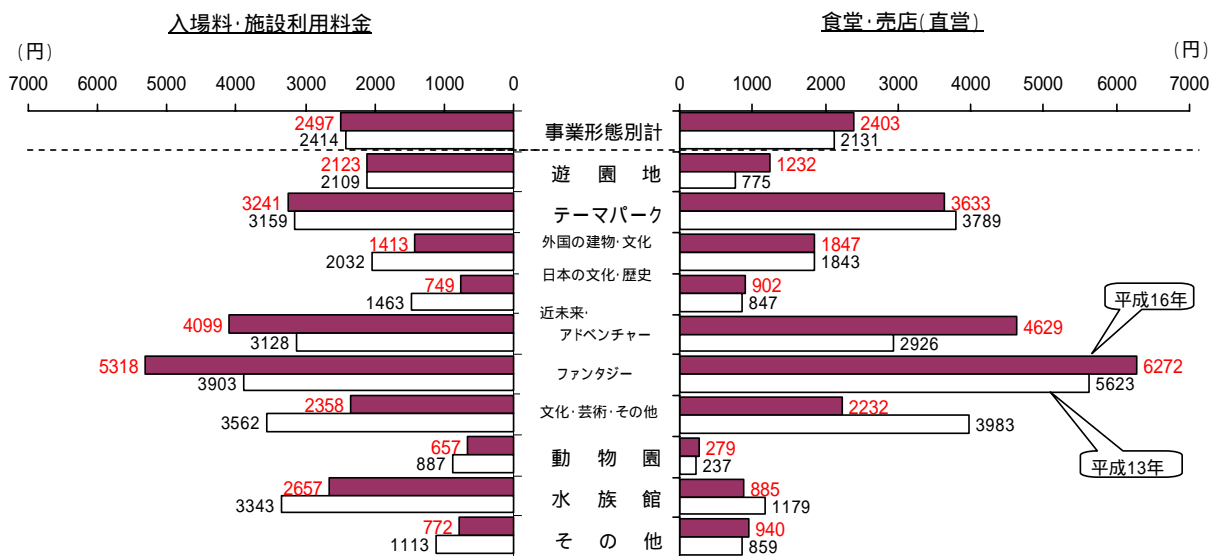
5. 入場料・施設利用料金等

入場者1人当たり入場料・施設利用料金を前回(平成13年)調査と比べると、2497円、前回は3.4%の増加となった。

事業系態別にみると、「遊園地」(2123円、同0.7%増)、「テーマパーク」(3241円、同2.6%増)はともに微増となっているが、「テーマパーク」のうち「近未来・アドベンチャー」(4099円、同31.0%増)と「ファンタジー」(5318円、同36.3%増)については大幅な増加となっている。

1人当たり食堂・売店(直営)利用料金は、2403円、同12.8%の増加で、入場料・施設利用料金と同様に、「近未来・アドベンチャー」(4629円、同58.2%増)と「ファンタジー」(6272円、同11.5%増)が増加となっている。

入場者1人当たり入場料・施設利用料金・
食堂・売店(直営)利用料金

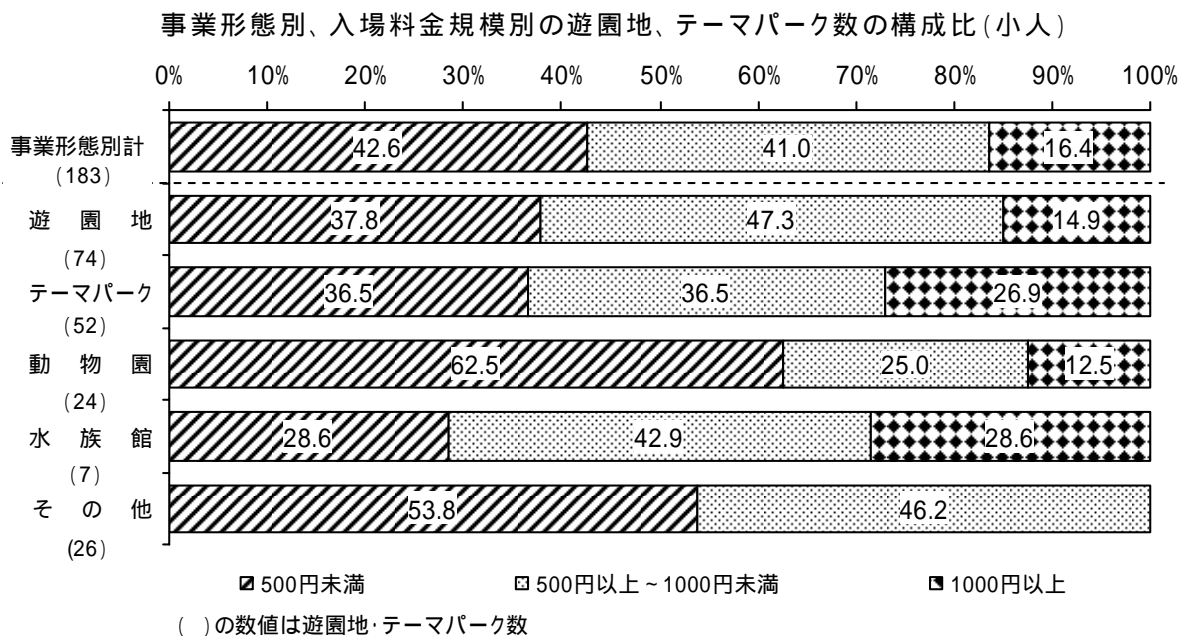
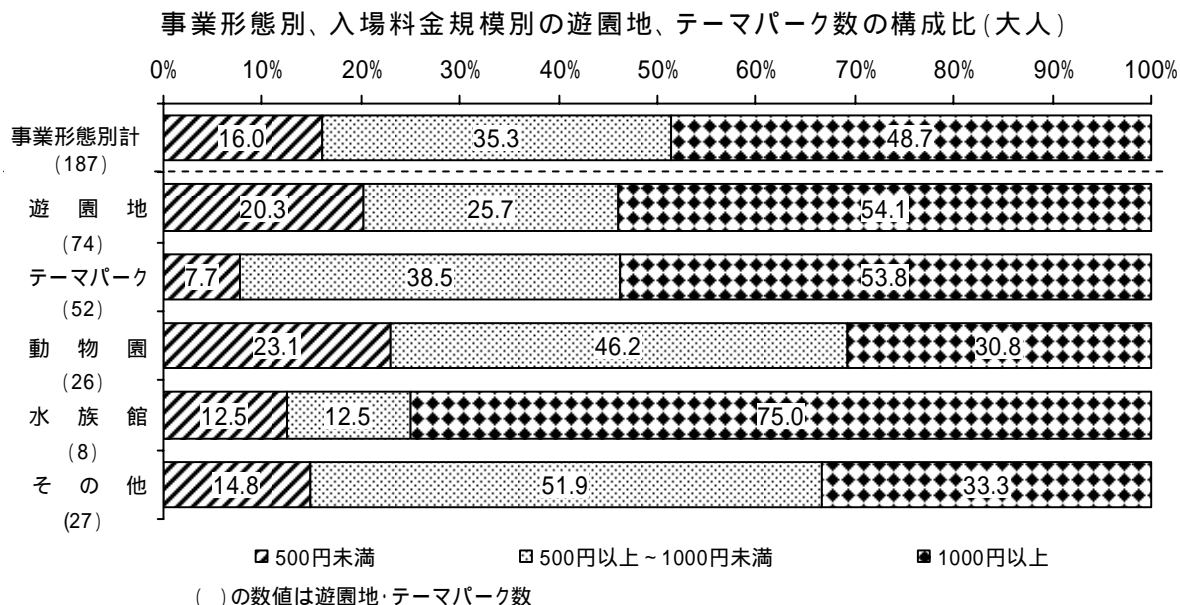


6. 入場料金

入場料(パスポート料金等を含む。)を設定している遊園地・テーマパーク数は、「大人」では187事業所、「小人」の設定がある事業所は183事業所であった。

入場料金規模別にみると、「大人」では「1000円以上」が5割を占めているのに対して、「小人」では2割弱となっている。

また事業形態別にみると、「動物園」は「大人」も「小人」も「1000円未満」が5割以上と安価な料金設定となっているが、「遊園地」、「テーマパーク」、「水族館」については「大人」の料金「1000円以上」が5割以上となっており、「大人」と「小人」では入場料金設定に大きな違いがみられる。



7. 年間営業費用

事業所全体の年間営業費用(遊園地・テーマパーク部門以外を含む)は、5518億円、年間売上高に占める営業費用比率は91.9%となっている。内訳をみると、ショー・イベントなどの制作費を含む、「その他の営業費用」が2560億円(構成比46.4%)、「給与支給総額」が1141億円(同20.7%)、「食堂・売店(直営)売上原価」が1238億円(同22.4%)などとなっている。

また、事業形態別の構成比をみると、「テーマパーク」の「給与支給総額」が18.2%と他の事業形態に比べ最も低く、一方、「食堂・売店(直営)売上原価」は25.2%と最も高くなっている。

費用区別、事業形態別年間営業費用

費用区別	平成13年 (百万円)	平成16年 (百万円)	前回比 (%)	遊園地		テーマパーク		動物園		水族館		その他	
				(百万円)	構成比 (%)	(百万円)	構成比 (%)	(百万円)	構成比 (%)	(百万円)	構成比 (%)	(百万円)	構成比 (%)
年間営業費用	557,933	551,821	▲1.1	112,587	100.0	396,360	100.0	18,561	100.0	8,715	100.0	15,597	100.0
給与支給総額	125,096	114,085	▲8.8	28,713	25.5	72,314	18.2	5,696	30.7	2,286	26.2	5,077	32.6
施設管理費	47,066	42,006	▲10.8	14,307	12.7	21,125	5.3	3,356	18.1	988	11.3	2,231	14.3
賃借料	21,474	15,929	▲25.8	5,375	4.8	8,520	2.1	1,152	6.2	441	5.1	441	2.8
食堂・売店(直営)売上原価	112,506	123,825	10.1	16,907	15.0	99,825	25.2	2,297	12.4	1,092	12.5	3,704	23.7
その他の営業費用	251,792	255,976	1.7	47,286	42.0	194,578	49.1	6,060	32.6	3,909	44.9	4,144	26.6

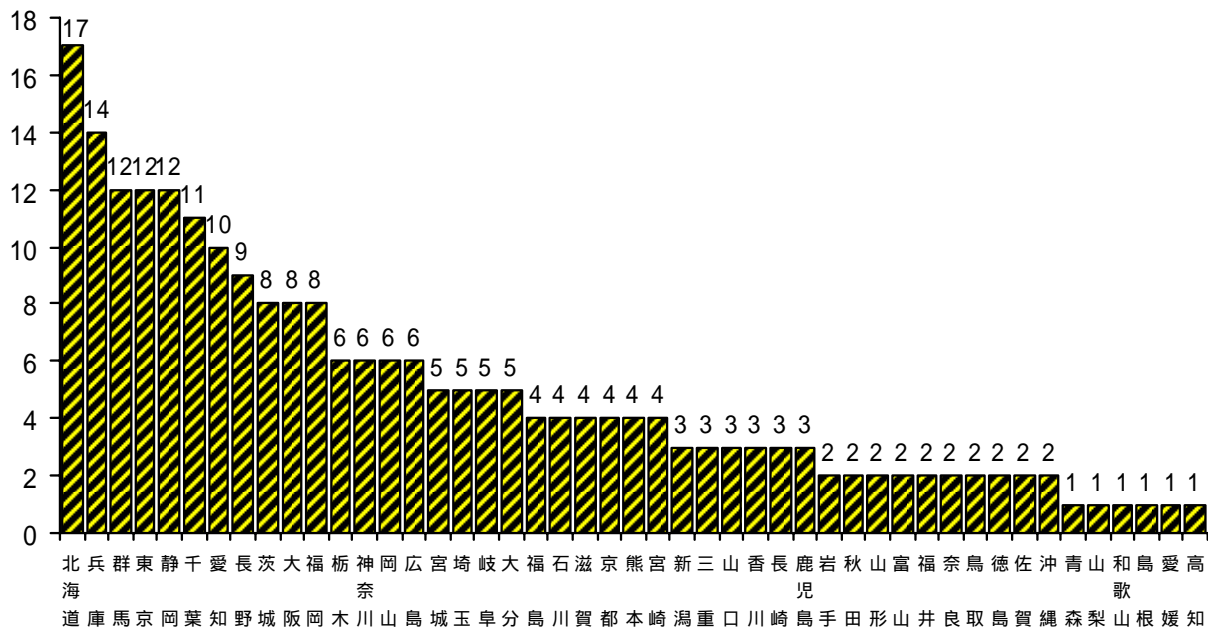
8. 都道府県別の動向

遊園地・テーマパーク数

遊園地・テーマパーク数を都道府県別にみると、北海道が17事業所と最も多く、以下、兵庫14事業所、群馬、東京、静岡がそれぞれ12事業所、千葉11事業所、愛知10事業所と続いており、これら7県が10事業所以上となっている。ちなみに、最も多い北海道の事業形態をみると、「遊園地」が7事業所で最も多く、次いで「水族館」の4事業所となっている。

都道府県別の遊園地・テーマパーク数

遊園地・テーマパーク数



年間売上高

年間売上高を都道府県別にみると、千葉が 2967 億円(構成比 49.4%)と他県に比べ圧倒的な年間売上高で、全国の年間売上高の 5 割弱を占めている。以下、大阪 811 億円(同 13.5%)、三重 460 億円(同 7.7%)、東京 247 億円(同 4.1%)、長崎 191 億円(3.2%)などとなっている。これら上位県のうち千葉、大阪、三重、長崎は大規模テーマパーク、東京は遊園地の寄与が大きい。

都道府県別の年間売上高(上位 5 県)

順位	都道府県	遊園地・テーマパーク数	年間売上高 (百万円)	構成比 (%)	入場者数 (万人)	1遊園地・テーマパーク当たり	
						年間売上高 (百万円)	年間入場者数 (万人)
全国計		233	600,639	100.0	10,891	2,578	47
1位	千葉	11	296,674	49.4	2,840	26,970	258
2位	大阪	8	81,123	13.5	1,356	10,140	169
3位	三重	3	46,048	7.7	443	15,349	148
4位	東京	12	24,683	4.1	1,027	2,057	86
5位	長崎	3	19,125	3.2	X	6,375	X